

遠藤彰子展

③

注目の6作品

1986(昭和61)年

迷宮のような街の情景を描いた「遠い日」(85年、東京国立近代美術館蔵)

安井賞を受賞した遠藤

彰子さんは、作家として

の評価が飛躍した一方、

従来の「街」シリーズを

描き続けるだけでは表現

に限界が訪れることを感じ

葛藤していた。この状

況を脱却しようと試行錯

誤を繰り返す中で、50

0号という大画面を生か

した表現の追求に新たな

可能性を見いだした。本

作はその先駆けとなった

記念碑的作品である。

80年代末には、東西冷

戦の終結をはじめ歴史的

事件がいくつも発生し、

「みつめる空」 1989年、縦248.5㌢、横333.3㌢

作ではさまざまな手段が講じられている。

画面手前から奥に向か

って伸びる道や階段は、

鑑賞者の目を巧みに誘導

する動線となっている。

その先で目にするのは

「二つの空」である。画

面右側には下降する「落

ちていく空」、左側には

上昇する「見上げる空」

が配されている。誘導さ

れた視線が相反する「二

つの空」を追ううちに、

鑑賞者は次第に重力が反

転するような錯覚に陥

る。遠藤さんはこれを現

実を揺らす眩暈のような

効果「肉体が意識を揺

さぶり、意識が変性する

重力が反転する錯覚に



かし、本作の完成は遠藤 となった」といい、以降 になった。さんにとって「絵画の上 500号以上の作品が精 (黒沢匠・山形美術館主 力的に発表されることと 任学芸員)

「遠藤彰子展 巨大画で挑む生命の叙事詩」(主催・山形新聞、山形放送、山形美術館) は8月27日まで、山形市の山形美術館。中学生以下は土曜日と、日曜日午前中の入館無料。